



パシフィックシステム株式会社

PACIFIC SYSTEMS  
パシフィックシステム株式会社

# パシフィックシステム株式会社 2025年3月期決算説明資料

2025年5月14日



Pacific Systems  
パシフィックシステム株式会社

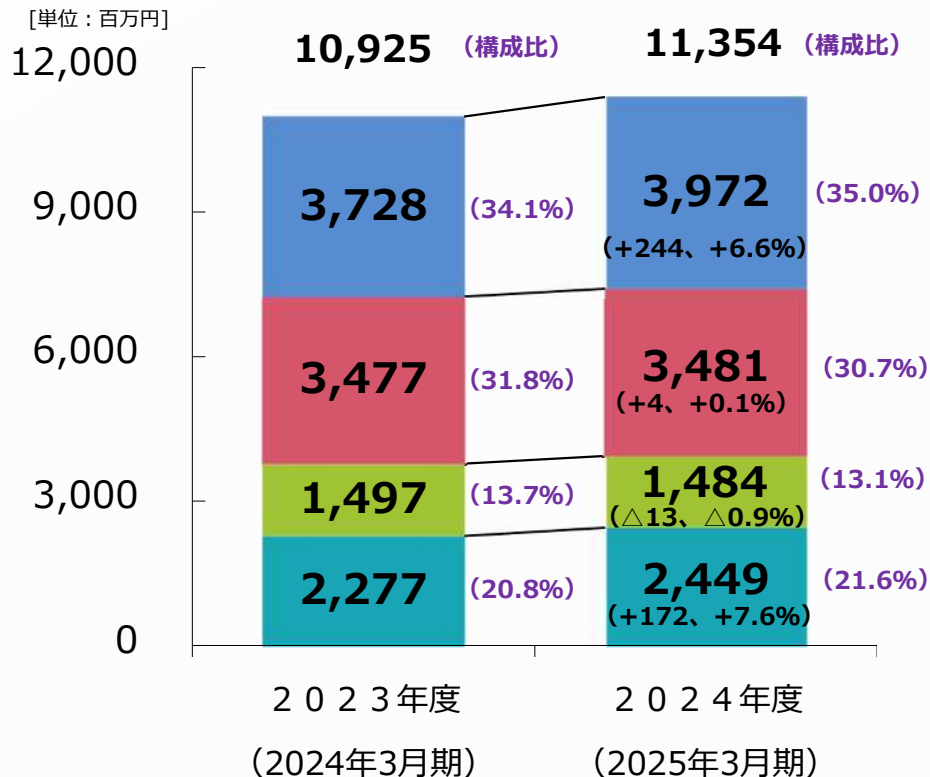
# 2025年3月期 決算概況

決算年度 (単位：百万円)	2023年度 (2024年3月期) (A)	2024年度 (2025年3月期) (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	10,925	11,354	428	3.9%
売上総利益 (利益率)	2,868 (26.3%)	3,001 (26.4%)	133	4.7%
販売管理費	2,016	2,134	118	5.9%
営業利益 (利益率)	852 (7.8%)	867 (7.6%)	15	1.8%
経常利益 (利益率)	866 (7.9%)	890 (7.8%)	24	2.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (利益率)	580 (5.3%)	654 (5.8%)	74	12.9%

[売上高]  
機器等販売、システム販売、システム運用・管理等のセグメントで増加。

[損益]  
売上高の増加に伴い、各利益が増加。

親会社株主に帰属する当期純利益は上記要因に加え、賃上げ促進税制等の適用により税負担が軽減されたため増加。

**連結 事業4区分別売上高の前期比**


※セグメント間の調整額（前期：△55百万円/△0.5%、今期：△33百万円/△0.3%）は除く

**システム運用・管理等**

システム運用支援において受注単価並びに支援人員の増加、またデータセンター業務並びに保守サービスにおいて作業が増加したことにより増収

**システム販売**

医療事業の大型プロジェクトが終了した反動があったものの、生コンクリート協同組合向けシステムの受託開発並びに生コン制御盤（PAT-ONE）等の売上増加により増収

**ソフトウェア開発**

ERPシステムの導入や基幹業務システムの受託開発があったものの、大規模プロジェクト完了の反動等により減収

**機器等販売**

パソコンやライセンス等の更新需要の高まり、並びに文教市場向けの教育機器の販売が前期に続き好調を維持したため増収

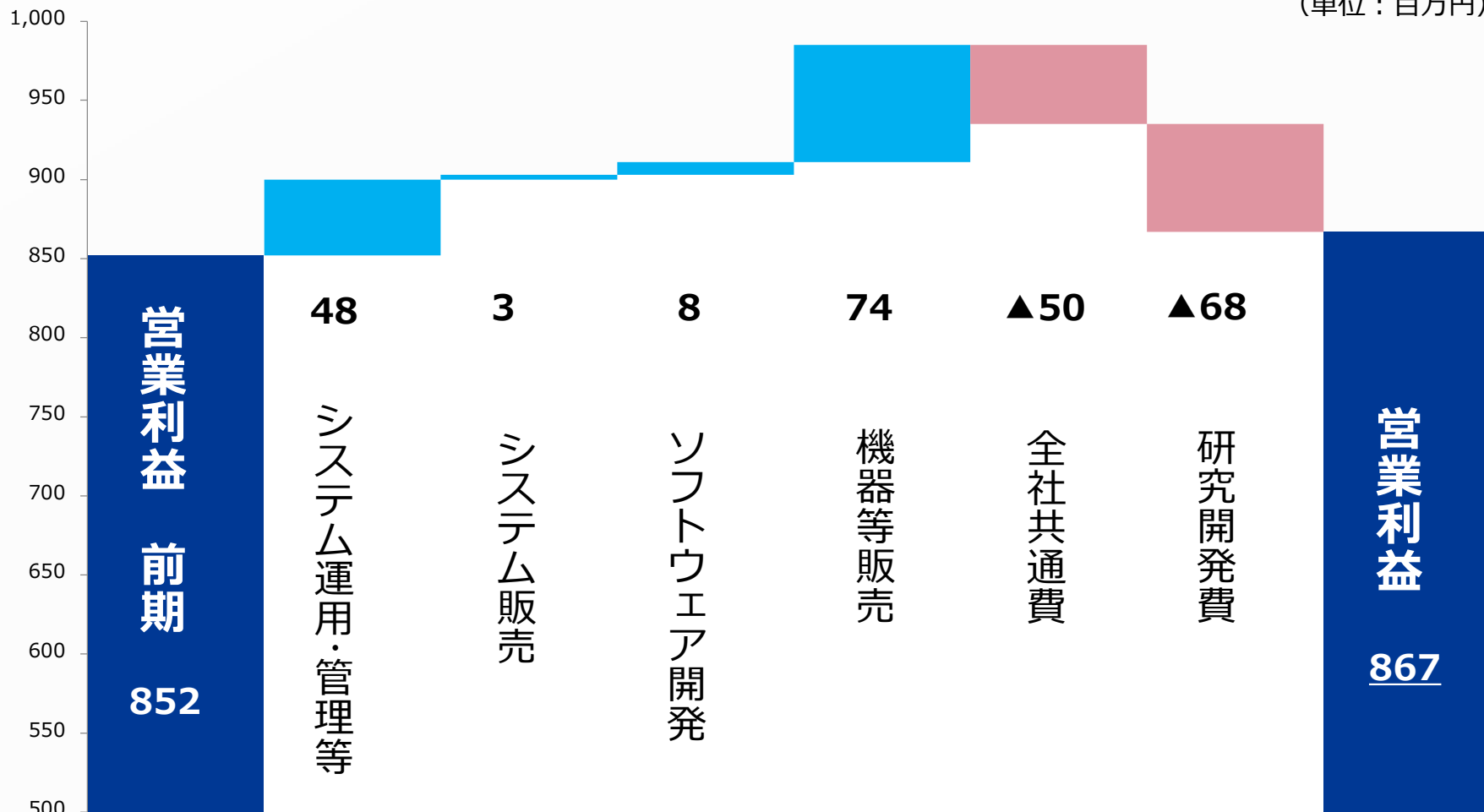
## 事業区分別のセグメント利益

(単位：百万円)

区 分	2023年度 (2024年3月期) セグメント利益 (A)	2024年度 (2025年3月期) セグメント利益 (B)	前期比 (B - A)	増減率
システム運用・管理等	1,101	1,150	48	4.4%
システム販売	529	532	3	0.6%
ソフトウェア開発	335	344	8	2.6%
機器等販売	193	267	74	38.5%
全社共通費 (販売費・一般管理費)	△1,308	△1,428	△119	9.2%
合 計	852	867	15	1.8%

# 営業利益分析(前年同期比)

(単位：百万円)

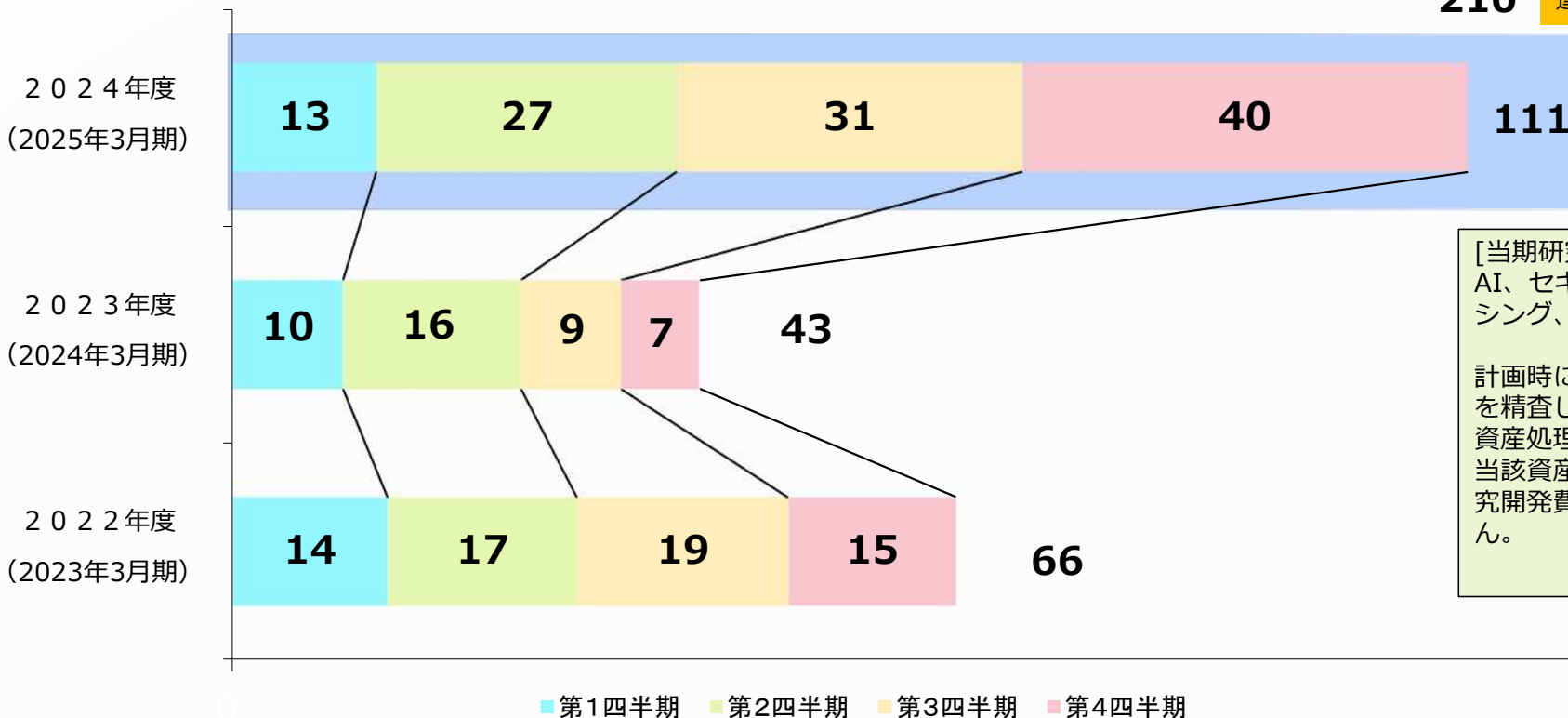


連結 四半期ごとの研究開発費

[単位：百万円]

計画値

210 達成率 53.1%



[当期研究開発テーマ]  
AI、セキュリティ、画像センシング、パッケージ開発等

計画時に研究開発とした案件を精査した結果、一部を固定資産処理へ変更しております。当該資産16百万円は当期の研究開発費実績に含まれてません。

## 連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
	2024年 3月期	2025年 3月期	増減		2024年 3月期	2025年 3月期	増減
流動資産	6,504	6,739	+235	流動負債	2,779	2,576	▲203
				固定負債	279	492	+212
				負債合計	3,059	3,068	+9
固定資産	2,739	3,012	+272	純資産の部			
				純資産合計	6,185	6,683	+498
資産合計	9,244	9,752	+508	負債・ 純資産合計	9,244	9,752	+508

[流動資産]  
仕掛品、電子記録債権  
現金及び預金が増加

[固定資産]  
リース資産等の有形固定  
資産が増加

[流動負債]  
買掛金、未払法人税等、  
の減少

[固定負債]  
リース債務などの増加

[純資産]  
親会社株主に帰属する当  
期純利益を計上したこと  
による増加

主な指標	2024年3月期	2025年3月期	増減
自己資本比率	66.9%	68.5%	+1.6p
一株当たり純資産	4,180円22銭	4,517円44銭	+337円22銭



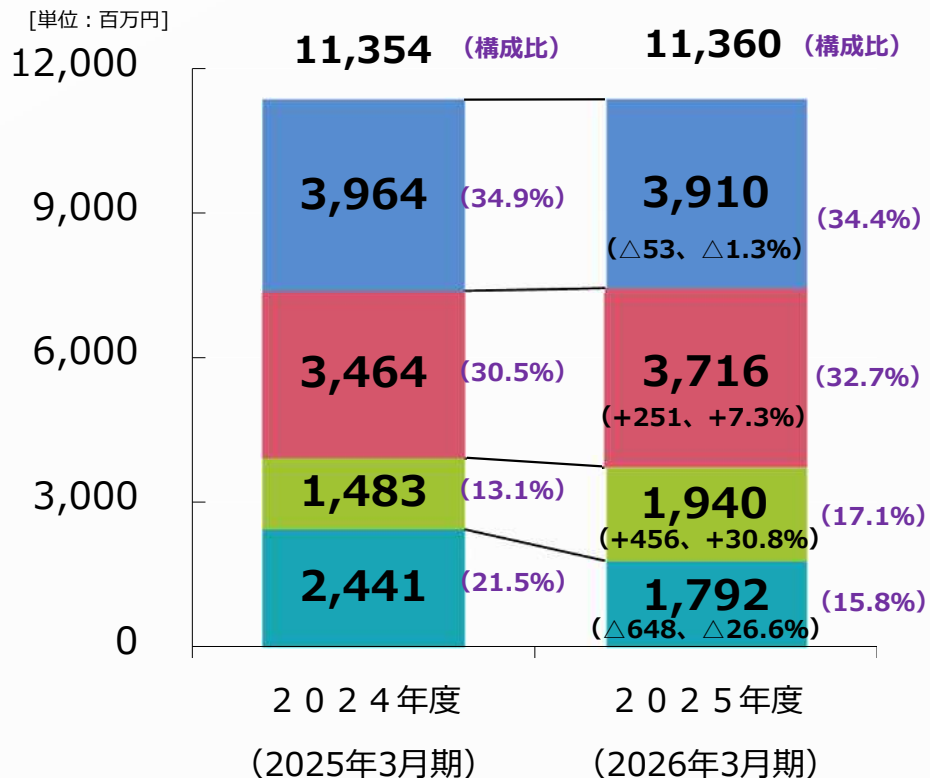


Pacific Systems  
パシフィックシステム株式会社

# 2026年3月期 業績予想

## 前期実績との対比

決算年度 (単位：百万円)	2024年度 (2025年3月期) 実績 (A)	2025年度 (2026年3月期) 予想 (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	11,354	11,360	5	0.1%
売上総利益 (利益率)	3,001 (26.4%)	3,159 (27.8%)	157	5.2%
販売管理費	2,134	2,276	142	6.7%
営業利益 (利益率)	867 (7.6%)	882 (7.8%)	15	1.8%
経常利益 (利益率)	890 (7.8%)	883 (7.8%)	△7	△0.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	654 (5.8%)	609 (5.4%)	△45	△7.0%

**連結 事業4区分別売上高の前期比**


※セグメント間の調整額を含む。

**システム運用・管理等**

引き続き顧客へのシステム運用支援および新規サービスの展開を進める見通し。

**システム販売**

生コン、センシング、AI、IoT、セキュリティビジネス関連の展開を積極的に進める。

**ソフトウェア開発**

顧客へのERPシステム導入や、大規模な基幹業務システムの受託開発の継続して進める。

**機器等販売**

2024年度の予算外売上増の反動を受けて減収の見込みであるが、引き続き情報化機器やグループウェア等のソフトウェアの拡販を進める。



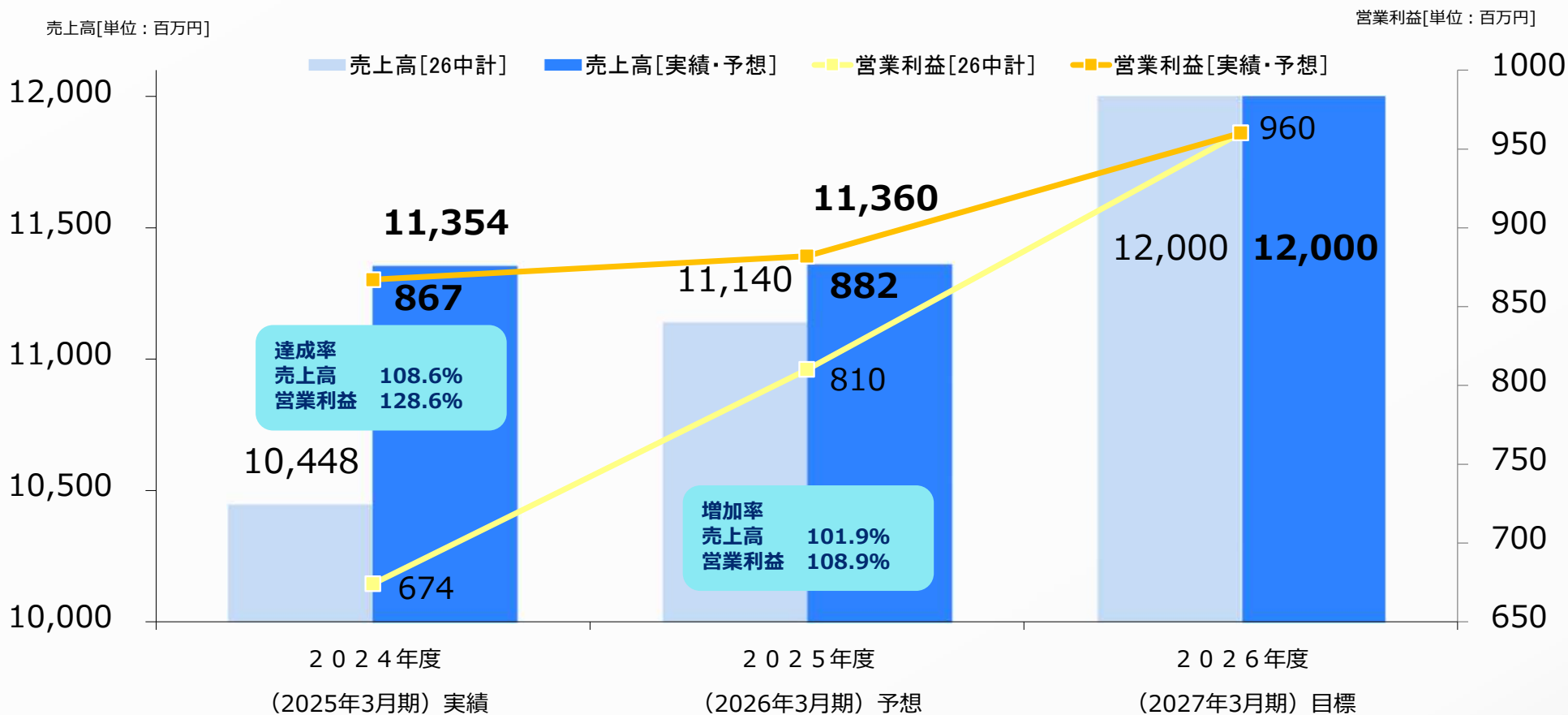
# 26中期経営計画の進捗状況



# 26中計進捗状況（売上高・営業利益）

連結

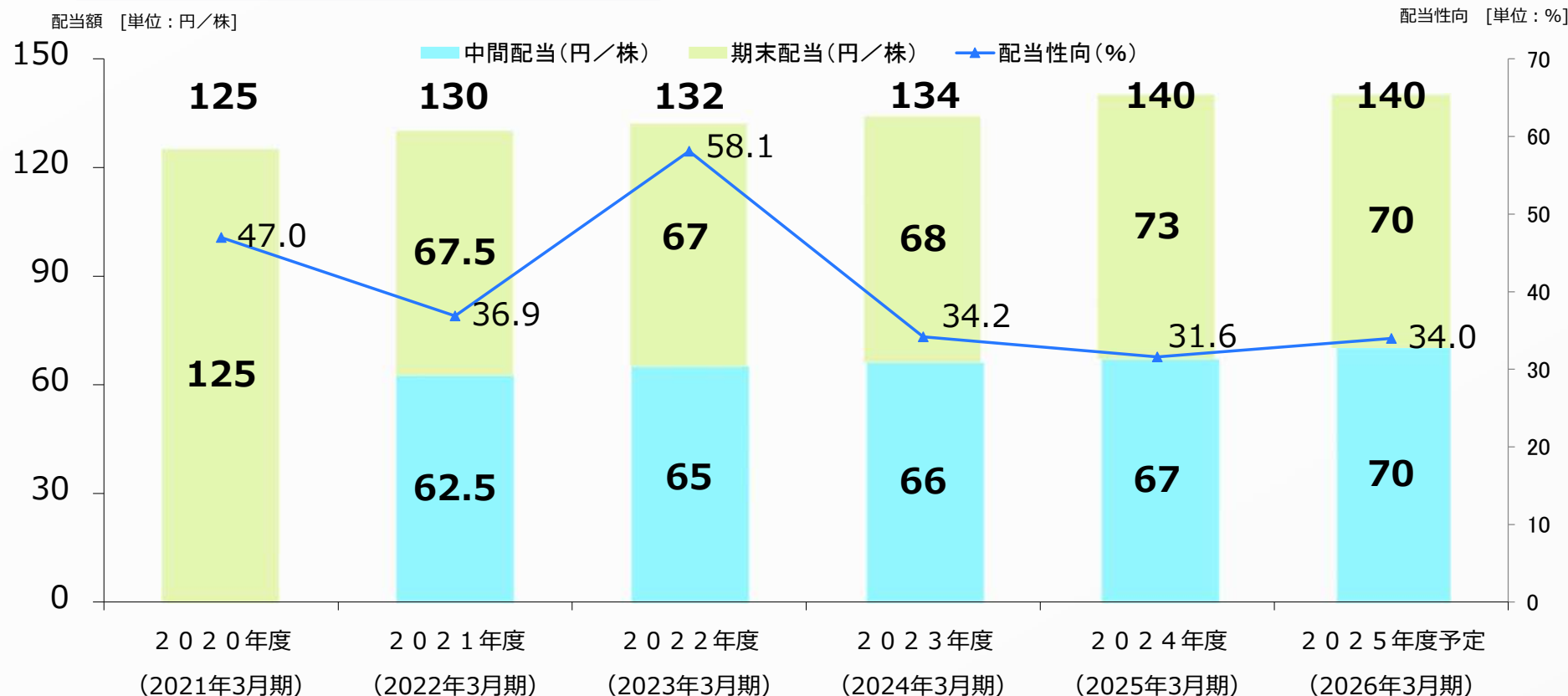
26中計進捗状況





# 株主還元



**連結 1株当たり配当並びに配当性向**


※中間配当は2022年3月期より実施。



# トピックス





# AI技術確立：AI転移学習により導入準備期間の大幅削減！



Point!

転移学習で少量データからの高精度モデル構築技術確立

特微量エンジニアリング技術の確立により転移学習の実装に成功しました。



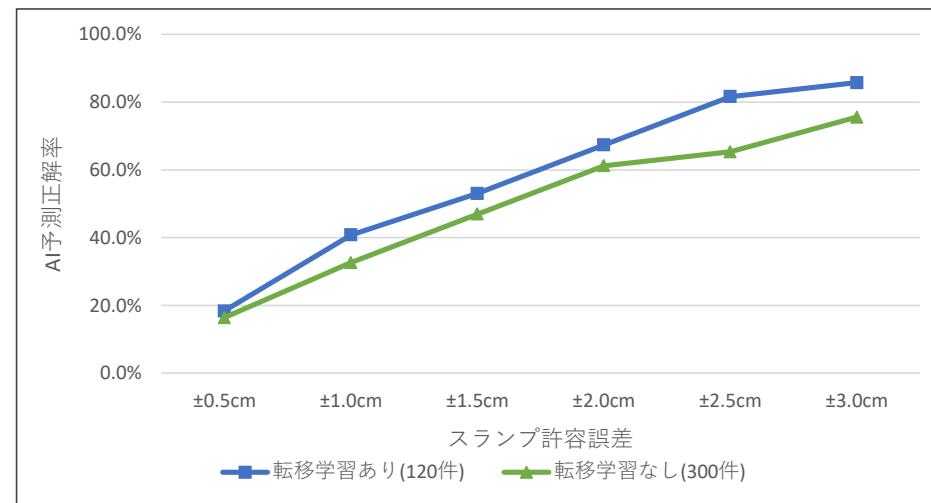
## ・データ収集の手間を軽減

PreSLump AI<sup>®</sup>で初期導入時に必要な学習データ数を60%以上(300件⇒120件)削減可能。(80%削減のケースも有ります)

## ・運用開始までの時間を大幅に短縮

PreSLump AI<sup>®</sup>で3か月から4か月のデータ収集期間が約1カ月程度に短縮可能

※PreSLump AI<sup>®</sup>は生コンの流動性の指標である、スランプを予測する当社のシステムです。



PreSLump AI<sup>®</sup>のAIモデルに転移学習を適用した例



Next Steps!

確立した転移学習技術により、AI導入期間の短縮が可能です。

この技術は業種や用途を問わず、さまざまなAI分野に柔軟に適用可能です。

※全てのケースでデータ数削減をお約束するものではありません。

# AI技術確立：条件の厳しいAIモデルでも精度向上！

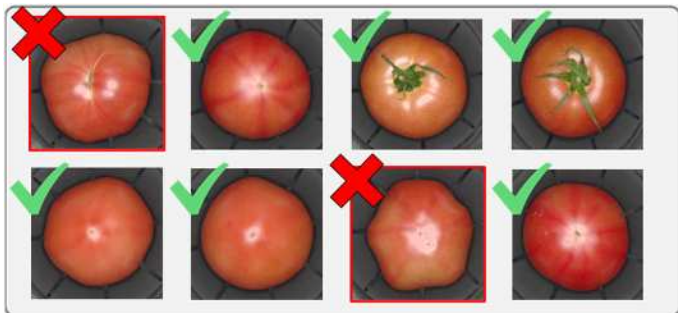
Point!

様々なAI技術を組み合わせることで難題を解決

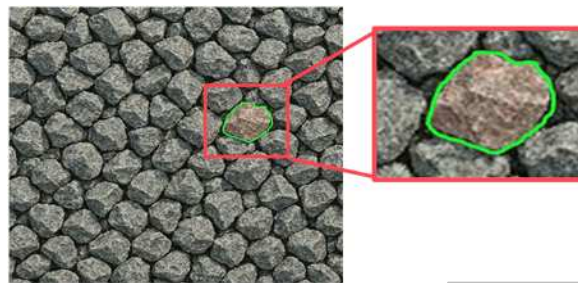
- ・教師データが少なく、AIの安定した運用が難しい
- ・形が不定形であったり、色も様々で人間の目では判断しにくい

これらのケースではAI精度向上が困難です。複合的にAI技法(※)を応用する事で精度向上を実現しています。

規格外農作物検知



異なる岩種の混入検知



粒子の正常・異常分類



- ※
- ・マルチモーダルAIによる複数情報の活用
  - ・転移学習・自己教師あり学習の併用
  - ・アンサンブル学習による精度最適化
  - ・セマンテックセグメンテーションによるピクセルレベルでの解析
  - ・ロバスト性の高い推論アーキテクチャの活用等

Next Steps!

農作物や原材料、鉱物資源、粒子判別など、形状の異なる対象物の検査・判別を高精度に自動化。  
多様な現場で効率化を実現します。

※画像はイメージです。



### <免責事項>

本開示資料に記載されている将来の計画等に関する内容につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した予想であり、リスクや不確定要素を含んでいます。

従いまして、記載されている将来の計画数値、施策の実現を当社として確約あるいは保証するものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。